



市長 徳川御三家の紀州藩なので、高虎公と家康公の深いつながりが当時の領地にも表れてきているのかもしれませんが。

それぞれの地域がどのように結ばれていたかという、伊勢街道、伊勢別街

道、伊賀街道、奈良街道、初瀬街道、それから伊勢本街道がダイレクトに伊勢神宮の方に結ばれて、香良洲には香良洲道というふうに7つの街道が通っていました。江戸時代、あるいはそれ以前からもこれらの地域がつながっていたとも言えるのではないのでしょうか。

安部 素晴らしい地図ですね。一目でよく分かります。

市長 城づくりというテーマから見てみますと、高虎公は1608年に初代津藩主として入府したとき、津城の大改修に取り掛かります。お城と共にまちの整備にも着手し、もっと海側を通っていた伊勢街道を、お城の側に引き込み、いわば街道を中心とした宿場町を展開しました。人々の流れ、物流を変え地域経済の活性化を図りました。

安部 「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ」という言葉がありますが、伊勢街道を今の津観音の前まで引き込んで、ちょうどお城の前を通る道をつくり、伊勢と津を結び付けて相乗効果を生んでいったのですね。江戸時代になると、庶民の娯楽とか旅はほとんど信仰に関わるものでしたから、今でいうレジャーの旅が、昔は信仰の旅と同じ意味を持っていました。幕府や各藩も



他所に出掛けるという者には非常に監視が厳しかったのですが、お伊勢参りに行くというとすぐに(通行)手形が出るような時代でした。おそらく高虎公はやがてそういう時代が来ると見越して、津観音と伊勢神宮を結び付けるという方策をとられたのではないのでしょうか。

市長 実は私は、旧町名「宿屋町」というところで育ったのですが、ちょうど津観音から大門、中之番、宿屋町、地頭領、分部町と街道沿いにまちが並んでいて、寺や神社参りをする道すがら発展してきたのが津のまちだと思います。

さて、高虎公の魅力という戦が強い、あるいは城づくりの名人とも言われますが、安部先生はどのよう

にお感じですか。

安部 一言でいうと求道心ですね。道を求めてひたすら努力を続けていく姿勢の明確さと強さです。高虎公はいわゆる槍働きをしても、一流だった人です。身長が190cm近くあって、例えばプロ野球で言えば三冠王を何度も取るようなプレーヤーだったわけです。普通ならそこで慢心して、ただの武刃者として終わりがちですが、高虎公はその上で大名にもなって、為政者としても力量を発揮していく。築城家としても一流です。今治城とか津城を見てみますと、それまで海沿いに城をつくるという発想はありませんでした。

RYUTARO ABE

直木賞作家

安部龍太郎さん

1955年、福岡県生まれ。著作に「彷徨える帝」「関ヶ原連判状」「信長燃ゆ」「恋七夜」「下天を謀る」など多数。2005年に「天馬、翔ける」で中山義秀文学賞を、2012年に「等伯」で直木賞を受賞。

